

演題：バイオポリエステル：ポリヒドロキシアルカン酸の超高分子量化はなぜ起こるのか？

講師：特任助教 廣江 綾香 博士

東京工業大学大学院総合理工学研究科

日時：2015年5月13日（水）10:30～12:00



場所：工学部材料・化学棟大会議室（MC526）

要旨：微生物や一部の古細菌が、エネルギー貯蔵物質として細胞内に蓄積するバイオポリエステル：ポリヒドロキシアルカン酸(PHA)は、バイオプラスチックとしての利用が期待される生体高分子である。PHAで最も代表的な、ポリヒドロキシブタン酸(PHB)では、超高分子量化（重量平均分子量 300 万 g/mol と定義される）、つまり非常に長いポリマーが生合成されることが報告されている。本講演では、この超高分子量化現象に着目し、材料利用に適した高分子量で高生産なポリマー生産がどのように達成されるのか、生合成メカニズムの検証結果についてお話したい。

連絡先：工学研究院生物機能高分子部門 田口精一（内線：6610）

文部科学省特別経費「分子構築イノベーション」